

本邦既知種検索表

A. 子実層面(わんの内面) 深紅色

B. 子囊盤は中形~大形, 径 2-5(-8) cm. 子囊胞子 $24-35 \times 10-12 \mu\text{m}$ ベニチャワンタケ *S. coccinea*BB. 子囊盤小形, 径 0.5-2.0 cm. 子囊胞子 $17.5-22.0 \times 10-12 \mu\text{m}$ ベニチャワンタケモドキ *S. occidentalis*

AA. 子実層面汚白色~淡クリーム色, あるいはしばしばピンク色を帯びる, 子囊盤外側もほぼ同色

C. 子囊盤中形, 径 3-6 cm. 子囊胞子 $17.5-25.0 \times 10-13 \mu\text{m}$ ヨソオイチャワンタケ *S. vassiljevae*11. *Sarcoscypha coccinea* (S. F. Gray) Lambotte ベニチャワンタケ

Fl. mycol. Belg., Suppl. 1: 302 (Mém. Soc. Roy. Sci. Liège, Ser. 2, 14: 302). 1887—Boud., Hist. Class. Discom. d'Eur. 55. 1907—Sacc., Syll. Fung. 8: 154. 1889—Kawamura, Icon. Jap. Fungi 741, f. 725. 1954—Raitviir, Eesti NSV Teaduste Akad. Toimetised, Biol. ser. 14: 533. 1965—Dennis, Brit. Ascom. 76, pl. 10c. 1978—Eckblad, Nytt Mag. Bot. 15(1-2): 106, f. 51-54. 1968—Otani, Picture Encycl. Gakuken (Tokyo) 10: 109, 228. 1972—Tai, Syll. Fung. Sinicorum 305. 1979.

Syn. *Macroscyphus coccineus* S. F. Gray, Nat. arrang. Brit. Pl. 672. 1821. *Peziza coccinea* Fr., Syst. Mycol. 2: 79. 1822. *Plectania coccinea* (Scop. ex Fr.) Fuckel, Symb. Mycol. 324. 1870—Seaver, N. Amer. Cup fung. (operc.) 191, pl. 19, f. 1. 1928—Hemmi, Bot. and Zool. (Japan) 2: 1645, f. 4-5. 1934—Kanouse, Mycologia 40: 484, f. 8-9. 1948—Nannf., Sv. Bot. Tidskr. 43: 476. 1949—Le Gal, Prodr. Flore Mycol. Madagascar 4: 293, f. 135. 1953—Imazeki and Hongo, Coloured Illust. Fungi Jap. 126, f. 325. 1957—Eckblad, Blyttia 15: 5, f. 1. 1957.

腐朽材や落枝などに生ずる紅色で, 径 1-5 cm, ときに 8 cm に及ぶ中形~大形の美しいチャワンタケである。多くは短かくて太い柄をもつが, ときにほとんど無柄のこともある。わんの外側は細かい毛でおおわれ白っぽくみえる。子囊胞子は長楕円形で, 無色, 平滑, $24-35 \times 10-12 \mu\text{m}$, 子囊内にあるときはしばしば粘液鞘に取り囲まれる。

ヨーロッパ各地, シベリア, 中国, 北米, オーストラリアなど温帯から亜寒帯にかけて広く分布する種類で, 日本では逸見博士 (1934) が京都府下での採集を報じたのが最初であり, 北海道から九州北部まで広く分布する。ただ北海道では主として4月より5月中旬までの早春に発生するが, 本州では春のほか, 9-11月の秋にも発生する。

Eckblad (1968) は本種の子囊壁にはしばしば横線状の模様が子囊のほとんど全長にわたりみられるというが, 筆者の観察した日本産の標本ではいまだこれを認めない。またこの種類にいくつかの forma をおく意見がある (Kling, 1944; Le Gal, 1953)。すなわち子実層面が白い *f. albida* Kling および子囊胞子の両端が鈍円でやや小形な *f. jurana* (Boud.) Le Gal をそれが大形な forma から区別するものである。Rosinski (1953) によれば胞子の大型な forma では子囊胞子は発芽管の伸長による普通の発芽をするが, それが小形な *f. jurana* では発芽管は伸長後, 間もなくその先端に分生胞子様の細胞を芽生するという。しかし筆者が主として北海道で数年にわたり観察したところでは, 乾燥すると子実層面が白っぽく退色することはしばしばだが, 新鮮時にそれが白色のものはまだみていない。また胞子の大きさや形にはかなりの変化があるが, その発芽に関しては Alexopoulos (1952; p. 348) の述べているところと同様に, 同一の子

囊盤から得た胞子でも胞子により普通の発芽管伸長により発芽するものと、発芽管の先端に分生胞子を芽生するものの両者があることが確認された。

ここで本種の学名について一言しておく。本種の学名として、しばしば *Plectania coccinea* (Scop. ex Fr.) Fuckel が使われ、日本でも従来これに従う者が多い。元来 *Plectania* は1870年 Fuckel の創設した属で *P. coccinea* と *P. melastoma* (Sow. ex Fr.) Fuckel の2種を含めているが、いずれをタイプとするかの指定はない。ところが *P. coccinea* は紅色の菌なのに対し、*P. melastoma* は黒色の菌で今日の Sarcosomataceae (従来の Urnuleae) に入るべき菌である。そこで1889年、Saccardo は Fuckel の *Plectania* を2属に分け、*P. melastoma* を含む1群を *Plectania* とし、*P. coccinea* を含む1群に *Sarcoscypha** (Fr.) Boud. をあてることとした。既述のように *Plectania* は Fuckel の創設のとき上記の2種を含むだけなのだから、以上のように Saccardo が属を2分したときに *Plectania* 属のタイプを *P. melastoma* と指定したことになる。しかるに1928年に至り Seaver は *Plectania* のタイプに *P. coccinea* を指定しており、これがしばしば採用されて今日に至っているのだが、タイプの重複指定であり承認されるべきものでない。すなわちベニチャワンタケの学名は上記の通り *Sarcoscypha coccinea* となる。

12. *Sarcoscypha occidentalis* (Schw.) Sacc. ベニチャワンタケモドキ (Fig. 11)

Syll. Fung. 8: 154. 1889—Raitviir, Eesti NSV Teaduste Akad. Toimetised, Biol. ser. 14: 534. 1965—Dension, Mycologia 64: 615, f. 2-3, 10. 1972—Tai, Syll. Fung. Sinicorum 305. 1979.

Syn. *Peziza occidentalis* Schw., Trans. Amer. Phil. Soc. II 4: 171. 1832—Cooke, Mycogr. 55, pl. 25, f. 96. 1867. *Geopyxis occidentalis* (Schw.) Morgan, J. Mycol. 8: 188. 1902. *Plectania occidentalis* (Schw.) Seaver, N. Amer. Cup fung. (operc.) 193, pl. 20, f. 2, pl. 45, f. 23. 1928—Kanouse, Mycologia 40: 485, f. 5-7. 1948.

落枝などの材上に生える鮮紅色で、有柄のチャワンタケ。わんの直径 0.5-2.0 cm, 柄は中心生あるいは偏心生。偏心生の場合はしばしばわんの片側の生長が悪くて、やや耳房状 (*Otidea* 状)となる。柄の長さは1 cm 内外、その径 0.2-0.3 cm である。外側はやや白っぽい。わんのセクションを作って検鏡すると ectal excipulum の厚さは 60-100 μm , t. porrecta よりなり、その構成菌糸の径は 5 μm 内外、medullary excipulum の厚さは中央付近で約 600 μm , t. intricata をなす。子嚢は円筒形で、やや厚膜、下方に漸細し、320-350 \times 12.5-15.0 μm 。子嚢胞子は楕円形、無色あるいはわずかに黄色味を帯びる、平滑、1-2 油球を含む、17.5-22.0 \times 10-12 μm 。糸状体は糸状、径 2.5-3.0 μm 、下方で1-2回分岐する。前種 *S. coccinea* に似るが、それより小形で、外側はほとんど無毛のように見える。また本種の子嚢胞子は前種に較べ小形である。

ヨーロッパや北、中米に分布するが概して北方地域や高地に生ずる種類である。日本では北海道に産し、筆者は上音威子府、札幌近郊野幌などでしばしば本種を採集した。その採集時期はほとんど常に9月上旬~11月の秋期である。なお和名は筆者の新称。

13. *Sarcoscypha vassiljevae* Rait. ヨソオイチャワンタケ (Figs. 2a-2d, 12)

Eesti NSV Teaduste Akad. Toimetised, Biol. ser. 13: 29. 1964; ibid. 14: 534, f. 6. 1965.

* 1885年、Boudier が *P. coccinea* Scop. ex Fr. と *P. occidentalis* Schw. を含めて採用した属。